

も、宣教師たちが期待したほどの成果をあげることは不可能なのである。マンシヨたちが帰国した後の協議会において、このような議論がなされたということは、遣欧使節はヴァリニャーノたちの期待に沿うものであったのだろうかという疑問も湧いてくるのである。

おわりに

本稿では、まず伊東マンシヨについて、彼がどのような出自であり、なぜ「正使」として常に使節団の筆頭に挙げられるのかを考察した。日本側に残る史料が少なく、彼をローマへと導いた宣教師たちの残した史料からも、出自を明らかにすることは現時点では困難である。今後も引き続き、いたずらに顕彰するのではなく、新たな史料に基づいた議論が必要であろう。イエズス会文書館などに、遣欧使節に関する史料が眠っている可能性もある。

続いて、遣欧使節の目的について考察した。従来、使節の宗教的・文化的側面が強調されてきた。もちろん、印刷機などを持ち帰った文化的側面を蔑ろにすることはできない。しかしながら、まずによりも、遣欧使節は日本での布教活動を進めていく上で絶対必要な資金を得るため、それも生糸貿易により資金を獲得することを認めてもらうために行われたものであり、大航海時代の中でのスペイン・ポルトガル両国の国策とあわせて考えていくべき出来事なのである。

注

- (1) 『新編 新しい社会 歴史』(東京書籍) 八十三頁。
- (2) 『日本史B』(実教出版) 百五十八頁。
- (3) 『詳説 日本史B』(山川出版社) 百四十九頁。
- (4) 法華嶽薬師寺の天井板には、次のような言葉が書かれている

いる

奉造立天井一圓之 意趣者武運長久

弓前勝利諸勢之 軍兵守護一将之

幡箕譽名於顕 天下富敵退治

地方順治所望 成辨 仁同性女

所生愛子虎松女 虎千代麿虎次良磨

虎亀磨各各 息災延命一々

諸願皆令満足 故如件

天正三年亥乙南呂六日

伊東修理亮藤原朝臣祐青

- (5) アレッサンドロ・ヴァリニャーノ『アポロジヤ』第五章(結城了悟『天正少年使節―史料と研究―』純心女子短期大学長崎地方文化史研究所、一九九三年所収) 一八五頁。

- (6) 「一五八三年十二月一日付、ゴア発、ヴァリニャーノのグレゴリオ十三世宛て書簡」(苦小牧駒澤大学国際文化学部高橋裕史先生に翻訳していただいた)。

- (7) 「一五八五年ローマ発、ダイエゴ・デ・メスキータ神父のダイエゴ・ヒメネス神父宛て書簡」(結城了悟『新史料天正少年使節』(キリシタン研究第二九輯) 南窓社、一九九〇年所収) 三三三頁。

- (8) 「一五八七年一〇月一日付、生月発、ペドロ・ラモンのイエズス会総会長宛て書簡」(高瀬弘一郎監訳『イエズス会と日本 一』(『大航海時代叢書』第Ⅱ期六) 岩波書店、一九八一年所収) 三七〇―三八頁。

- (9) 『宮崎県史 通史編 中世』(宮崎県、平成十年) 九四七頁。

- (10) 前掲(8)、三七〇―三八頁。

- (11) 「天正一〇年一月一日、大友宗麟よりイエズス会総会長宛書簡」

- (12) 渡辺澄夫「大友宗麟のヤソ会総会長宛書状の真偽について」

〔大分県地方史〕第六二号)において、宗麟の花押の違いから、総会長宛ての書簡は宗麟によるものではなく、イエズス会に近い者によって作成されたものであると結論付けている。

- (13) 「一五八二年二月一日付、長崎発、ガスパル・コエリユ師よりイエズス会総会長宛、(一五八一年度)日本年報」(松田毅一監訳『一六・一七世紀イエズス会日本報告書』第三第六卷所収)三頁。

- (14) ルイス・フロイス『日本史』一一、第一一〇章(第三部四十三章)二五九頁。

- (15) 前掲(13)、二六〇―二七頁。

- (16) 松田毅一『近世初期日本関係南蛮史料の研究』(風間書房、昭和四二年)五九八―五九九頁。

- (17) 「一五八五年八月一日付、デイエゴ・デ・メスキータ神父の書簡」(結城了悟『新史料 天正少年使節』(キリシタン研究第二九輯)南窓社、一九九〇年所収)三五頁。

- (18) 渡辺澄夫「大友宗麟のヤソ会総長宛書状の真偽について」(『大分県地方史』第六二号)。

- (19) 松田毅一『大村純忠伝』(教文館、一九七八年)一五八頁。

- (20) 前掲(8)、四〇―四二頁。
- (21) 「一五八三年二月一日付、ゴア発、ヴァリニャーノよりエーヴォラ大司教ドン・テオトーニオ・デ・ブラガンサ宛て書簡」(松田毅一監訳『十六・七世紀イエズス会日本報告集第三期第六卷』所収)一七二頁。

- (22) 「一五八三年一月二八日付、コチン発、ヴァリニャーノよりイエズス会総会長宛て書簡」(苦小牧駒澤大学国際文化学部高橋裕史先生に翻訳していただいた)。

- (23) 「一五八五年五月一日付、ペルージャのジヴァンコラ・デ・ノスタリスよりイエズス会総長クラウディオ・アクア

ヴィヴァ宛て書簡」(結城了悟『新史料 天正少年使節』(キリシタン研究第二九輯)南窓社、一九九〇年所収)九五頁。

- (24) 「メスキータよりイエズス会総会長宛て書簡」(結城了悟『新史料 天正少年使節』(キリシタン研究第二九輯)南窓社、一九九〇年所収)七四頁。

- (25) 「一五八五年六月五日付、テルニ発、イッポリト・ヴォリア神父よりイエズス会総会長アクアヴィヴァ宛て書簡」(結城了悟『新史料 天正少年使節』(キリシタン研究第二九輯)南窓社、一九九〇年所収)一〇六頁。

- (26) イタリアフロレンス文書館蔵「一五八四年三月一日付、マッテオ・フォルスタニよりトスカナ大公宛て書簡」(『大日本史料』第一一編別巻之一 天正遣欧使節関係史料一所収)一七一頁。

- (27) 「イタリアモデナ文書館文書 一五八五年パンの帳簿」(『大日本史料』第一一編別巻之二 天正遣欧使節関係史料二所収)四九頁。

- (28) 「イタリアモデナ文書館文書 一五八五年日用品帳簿」(『大日本史料』第一一編別巻之二 天正遣欧使節関係史料二所収)五五頁。

- (29) 日本語訳は、泉井久之助他共訳『デ・サンデ天正遣欧使節記』(新異国叢書第一輯第五卷)として、雄松堂出版より出版されている。

- (30) アレッサンドロ・ヴァリニャーノ『アポロジア』第五章(結城了悟『天正少年使節―史料と研究―』純心女子短期大学長崎地方文化史研究所、一九九三年)一八四頁。

- (31) 高瀬弘一郎『キリシタン時代の文化と諸相』第一部第一章(八木書店、平成一三年)一九―二二頁。

- (32) ヴァリニャーノ著 松田毅一他訳『日本巡察記』(平凡社、昭和四十八年)一四〇―一四二頁。なお、イエズス会が日本

での布教活動にどれほどの経費を必要としたかについては、高瀬弘一郎『キリシタン時代の研究』第二部第一章「キリシタン教会の経費」(岩波書店、一九七七年)を参照。

(33) 高瀬弘一郎『キリシタン時代の文化と諸相』第一部第一章(八木書店、平成二三年)八〇―一〇頁。

(34) 「一五八九年七月二八日付、マカオ発、アレッサンドロ・ヴァリニャーノよりイエズス会総会長宛て書簡」(高瀬弘一郎監訳『イエズス会と日本 一』(『大航海時代叢書』第Ⅱ期六)岩波書店、一九八一年)六二頁。

(35) 同右、一四二頁。

(36) 同右、一四八頁。

(37) 「一五八四年一〇月六日付、マカオ発、フランシスコ・カブラルのイエズス会総会長宛て書簡」(高瀬弘一郎監訳『イエズス会と日本 一』(『大航海時代叢書』第Ⅱ期六)岩波書店、一九八一年)一九頁。

(38) 「一五九二年一月二十三日付、マカオ発、フェルナン・マルティンスのイエズス会総会長宛て書簡」(高瀬弘一郎監訳『イエズス会と日本 一』(『大航海時代叢書』第Ⅱ期六)岩波書店、一九八一年)九五―九六頁。

(39) 高瀬弘一郎『キリシタン時代の研究』(岩波書店、一九七七年)三三九―三四一頁。

(40) 「日本イエズス会第一回全体協議会と、東インド巡察師A. ヴァリニャーノの裁決」(井手勝美『キリシタン思想史研究序説』ペリカン社、一九九五年)四一六―四一八頁。

(41) 同右、四五四頁。

(42) 「一五八三年一〇月二八日付、コチン発、ヴァリニャーノのイエズス会総会長宛て書簡」(苦小牧駒澤大学国際文化学部高橋裕史先生に翻訳していただいた)。

(43) 「日本イエズス会第二回全体協議会と、東インド巡察師

A. ヴァリニャーノの裁決」(井手勝美『キリシタン思想史研究序説』ペリカン社、一九九五年)五三一―五三二頁。